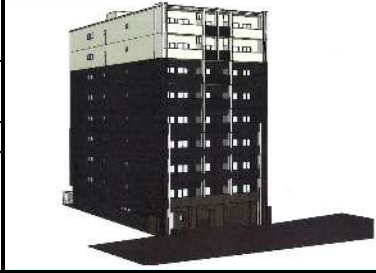


CASBEE® 京都-新築

標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ベラジオ 四条通 共同住宅 新築工事	階数	地上9F
建設地	京都市中京区壬生高樋町10番、10番11	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	48人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2018年4月1日
敷地面積	325.25 m ²	作成者	今井 英雄
建築面積	276.37 m ²	確認日	2019/8/
延床面積	2,155.36 m ²	確認者	京都確認検査機構



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 23% ③上記+②以外の 121% ④上記+ 121%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.7</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.9</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.7</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>計画地は都心にあり周りは高層の建物も散在している。その中で自己的なデザインでなく周りと協調したものとした。外壁は反射を抑えた材料を使用し建物内の設備機器も低騒音省エネ対応の機器の採用に努めた。</p>	<p>その他</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>サッシュはT-1性能のサッシュを使用し壁面は界壁部分を除き発泡ウレタンt20吹付とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>各居室にはマルチメディアコンセントを採用し、光インターネット及びLANを実装している。共用部はバリアフリー対応としている。又専用部内も段差を設けない様に計画している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>地域に配慮し、沿道型美観地区の規制に沿った、外観色調としている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>屋上に定格4.275Kwの太陽光発電システムを設置。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>地域地産地消の木材の使用。有害物質を含まない材料の使用に努める。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>外壁仕上げ材は反射の少ない仕上げ材を採用。空調機器低騒音型を採用し、バルコニー内に機器を設置し騒音対策を施している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される